

部局紹介

調査及び立法考査局

国会の立法活動を補佐するため、国会議員その他国会関係者に対して、法案等の分析・評価、国政審議に係る政治、経済、社会等各般の調査及び情報提供を行います。
また、国会情報・立法情報への国民のアクセスを助け、国会と国民をつなぐ役割も果たします。

調査及び立法考査局政治議会議課 主査

加藤 慶一 H15入館(Ⅱ種)

- Career
- H15. 4～ 総務部人事課
- H16.10～ 同 総務課
- H19. 4～ 調査及び立法考査局国会レファレンス課
- H19.10～ 同 調査企画課
- H20. 4～ 同 財政金融課
- H28. 4～ 出向(衆議院法制局)
- H30. 4～ 調査及び立法考査局政治議会議課

- Profile
- 学生時代の専攻/法学
- 仕事の必需品/大型のホチキスとパンチ。
ページ数の多い文献を読む際にはばらけないように、また、読み終わったものを効率的にファイルに綴じることができるように。
- 休日の過ごし方/掃除、洗濯等の家事をこなし、気候のよい時期には近場の公園や行楽スポットに出かけて写真を撮ったりしています。



MESSAGE

専門的知見をいかし国会を補佐する

私が所属する政治議会議課は、議会、内閣、政党、選挙等の分野に関する専門的な調査を担当しています。国会議員等からの依頼を受けて行う調査では、当館所蔵資料その他の膨大な文献の中から適切な情報を見出し、分かりやすく整理して回答します。また、中長期的なものを含む国政上の課題について国内外の関連文献を読み込んだ上で論文にまとめ、刊行するという形の調査も行っています。

調査業務には、期限が短く瞬発力が求められるものがある一方、落ち着いたじっくりと取り組むことができるものもあります。論文の執筆は骨の折れる仕事ではありますが、国会議員から自分の論文について面談による説明を求められるなど、専門知識が国会審議に役立っていると実感できた時には大変やりがいを感じます。

国内外に出張する機会もあります。私の場合、オーストラリアの官庁や大学を訪れて現地調査を行った経験があるほか、類縁機関との業務交流のため韓国にも出張しました。普段の業務よりも一層刺激的で、特に印象深く記憶に残っています。また、他機関への出向の機会もあり、私は衆議院法制局に2年間に在籍しました。議員立法の現場により近いところに身を置いた経験は、今後の調査業務はもちろん、さらに広い視野に立って当館の業務を担っていく上でも、大変有意義であったと思います。

「この制度はこういう経緯で導入されたのか」、「外国にはこんな仕組みがあるのか」。調査員の仕事は日々、発見と驚きの連続です。豊かな知的好奇心と地道な調査をやり抜く粘り強さを持った方、ぜひ私たちと一緒に働きませんか。

海外での業務・調査研究

1～2年海外の大学院等に職員を派遣する長期在外研究、数週間から数か月海外の図書館や研究機関等に職員を派遣する短期在外研究のほか、国際会議への出席や現地での図書館事情、政策課題に関する調査などの海外出張の機会があり、若手の職員から管理職員まで、年間で約50名の職員が海外での業務・調査研究の機会を得ています。



職員を対象とした調査業務研修で講師を担当



日報業務交流に参加



日報の新聞チェック

ある1日のスケジュール

- 8:45 登庁、メールチェック
- 9:00 全国紙の朝刊をチェック
- 9:30 午後の議員へのレクチャー(*)について調査結果を課長に報告
- 10:00 課長の指摘を回答文書に反映し、想定していた口頭説明の内容も一部修正
- 11:00 明日締切りの調査依頼について書庫で資料調べ
- 12:00 同僚と昼食
- 13:00 議員会館でレクチャー。追加の資料を提供するよう指示を受ける
- 14:30 法令議会情報の調査方法に関する局内の研修に参加
- 15:30 英国の議院内閣制に関する論文の執筆
- 16:30 レクチャーの際に指示された資料を配達担当者に託し、秘書に報告
- 17:30 全国紙の夕刊をチェック
- 17:45 各種調査の締切りを確認し、退庁

(*) 調査結果を文書にまとめるなどした上で、その内容を議員に対して直接口頭で説明すること。

収集書誌部

納本制度に基づく国内出版物の網羅的な収集、購入や国際交換による外国出版物等の収集から、書誌データや典拠データの作成・提供といった資料整理、そして資料を恒久的に後世に伝えるための資料保存までを担います。

MESSAGE

収集、整理、保存…図書館の「礎」

皆さんは納本制度をご存知でしょうか。責任ある公的機関への出版物の納入を発行者等に義務付ける制度のことで、日本では当館がその運用を担っています。この制度のおかげで、当館には毎日、国内で発行された出版物が大量に届けられます。そしてそれらは、現在と未来の多くの読者のために、日本の文化的資産として永く保存されます。

私は収集書誌部で納本制度の運用に係る企画・調整を担当しています。目下の課題は、電子書籍の普及等により、出版物を取り巻く環境が大きく変化する中で、納本制度や、それを補完する制度を組み合わせ、よりよい資料収集の在り方や運用を考えることです。難しい課題ですが、将来にわたって、できるだけ多くの資料を継承できるよう、知恵を出し合っています。

収集書誌部の前は、利用者サービスや国会サービス、会計契約に関する業務も経験しました。当館には図書館と聞いてイメージする以上に様々な業務がありますが、いずれの場合も、若手の頃から主体的に考えて行動する機会がある職場だと思います。皆さんも一緒に働いてみませんか。



収集書誌部収集・書誌調整課 課長補佐

佐藤 菜緒恵 H13入館(Ⅱ種)

- Career
- H13. 4～ 逐次刊行物部複写課 (H14.4 資料提供部複写課に組織再編)
- H16. 4～ 総務部会計課
- H19. 7～ 調査及び立法考査局議会官庁資料課 立法情報係長(H20.7～)
- H22. 7～ 同 国会レファレンス課 連絡調整係長
- H24. 7～ 利用者サービス部サービス企画課 情報サービス企画係長(H25.4～)
- H29. 4～ 収集書誌部収集・書誌調整課 課長補佐

- Profile
- 学生時代の専攻/文学
- 好きな本/[掌の小説]川端康成、『新釈 走れメロス』森見登美彦、『ことりっふ』シリーズ。
- 休日の過ごし方/早起きして朝ごはんを食べに出掛ける「トアサ」が理想です。



納本される出版物が図書館に到着したところ



上司、同僚と打合せ

電子情報部

情報技術を用いた国会議員への調査サービス・情報提供サービスの充実のほか、国内外の誰もが利活用可能な「知識インフラ」の構築を目指します。また、業務の基盤となるネットワークやシステムの管理を担います。

MESSAGE

コミュニケーションを通じてシステムを作り育てる

電子情報サービス課は、情報システムの企画・開発業務を担当しています。当館では様々なシステムを開発し、公開していますが、その中でも、情報を収集し、整理し、利用者へ届けるという当館の使命を最もよく体現しているのが、私が考えるのが、国立国会図書館サーチ(NDLサーチ)です。NDLサーチは、全国の図書館、公文書館、美術館・博物館等の資料を統合的に検索できるサービスです。私は、NDLサーチの企画段階から携わり、現在も開発、運用等を担当しています。

意外に思われるかもしれませんが、システムの開発や運用を担う上で最も重要な能力は、コミュニケーション能力です。開発委託業者から報告を受け、内容を検討した上で作業指示を出す。NDLサーチが連携する外部システムの担当者や、各種の調整を行う。システムを継続的に改善していくために、同僚と様々な議論を交わす。仕事の大部分は、そういったコミュニケーションで成り立っています。

情報システムを作り育てることは、当館が提供するサービスのあるべき姿を日々考え、具現化していくことです。皆さんもそのような仕事をしてみませんか。



電子情報部電子情報サービス課 課長補佐

小澤 弘太 H7入館(Ⅱ種)

- Career
- H 7. 4～ 逐次刊行物部雑誌課
- H10. 4～ 調査及び立法考査局財政金融課
- H13. 4～ 同 国会レファレンス課
- H14. 4～ 主題情報部科学技術・経済課 経済社会係長(H15.4～) 企画運営係長(H19.4～)
- H21. 4～ 総務部情報システム課 システム第一係長(H22.4～)
- H23.10～ 電子情報部電子情報サービス課 課長補佐

- Profile
- 学生時代の専攻/経済学
- 志望動機/図書館に育てられていた自分がいる、という想いからです。知識・情報で人を強くすることに貢献したいと考えていました。
- 趣味/映画鑑賞 (一番好きな映画監督はサム・ペキンパー) 音楽鑑賞(主にロック) 旅行(特に好きな旅行先は韓国)



開発中のシステムについて同僚と議論



NDLサーチトップページ (http://iss.ndl.go.jp/)